

防災対策調査特別委員会会議記録

- 1 期 日 令和2年9月18日（金）
午前9時26分 開会
午前10時40分 閉会
- 2 場 所 第1委員会室
- 3 出席委員 委員長 上田 倫久
副委員長 木谷 敏勝
委員 青山 憲司、芦田 竹彦、
伊藤 仁、井上 正治、
奥村 忠俊
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 （別紙のとおり）
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 主査 伊藤 八千代
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

防災対策調査特別委員長 上田 倫久

防災対策調査特別委員会 次第

日 時：2020年9月18日（金）9：30～

場 所：第1委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議事項（個別課題）

- (1) 2020年度 市民総参加訓練実施状況について
- (2) 「円山川水系河川整備事業の進捗状況」について
- (3) 新型コロナウイルス感染症に対応した災害対策について
- (4) 委員会調査中間報告書について <別紙>

4 その他

5 閉 会

防災対策調査特別委員会名簿

【委員】

職名	氏名
委員長	上田 倫久
副委員長	木谷 敏勝
委員	青山 憲司
委員	芦田 竹彦
委員	伊藤 仁
委員	井上 正治
委員	奥村 忠俊

7名

【当局】

職名	氏名	職名	氏名
防災監	宮田 索	防災課長	原田 泰三
コウノトリ共生部長	川端 啓介	農林水産課長	柳沢 和男
		農林水産課参事	井垣 敬司
都市整備部参事	河本 行正	建設課長	富森 靖彦
上下水道部長	米田 眞一	下水道課長	石津 隆
		下水道課参事兼係長	堀田 政司
城崎振興局長	熊毛 好弘	地域振興課長	谷垣 一哉
竹野振興局長	瀧下 貴也	地域振興課参事	山根 哲也
日高振興局長	小谷 士郎	地域振興課長	中川 光典
出石振興局長	村上 忠夫	地域振興課長	今井 謙二
但東振興局長	羽尻 泰広	地域振興課長	大石 英明
消防長	榊田 貴行	本部参事	金納 広行
		本部参事	井崎 博之

23名

【議会事務局】

職名	氏名
主査	伊藤八千代

午前9時26分開会

○委員長(上田 倫久) おそろいでございますので、ただいまから防災対策調査特別委員会を開会いたします。

委員長の挨拶ということで、この私も7年目になりました。7年前も防災調査特別委員会におらしていただきまして、台風23号の後始末というか、そのことについての改修なり、また復興、復旧なりと、そのときからおってさせていただきました。今日でもう私、委員長としては最後になると思いますので、今日、気合を入れて、感謝の意味でも込めまして調査をさせていただきます。明るく元気に前向きに、逃げるな、隠すな、うそつくな、人のため、世のために頑張ってきております。防災対策調査委員会に所属しまして7年目を迎えます。防災士も取得いたしました。2004年10月20日、台風23号に襲われ、甚大な被害を受け、復旧、改修工事が今年度で終了いたします。昨日もちょっとずっと見て回りました。玄武洞のところもかさ上げされておまして、かなりもうよくなってきとるかなというふうに思っております。

本委員会では、主に市の防災組織体制、河川、内水、土砂災害対策及び地震、津波、高潮、雪害対策等の状況を把握し、精力的に調査研究を行ってきました。

近年、毎年のように、日本各地で大災害が発生しています。地震災害では、2011年の東北大震災、2016年の熊本地震などがあり、豪雨等災害では2017年9月の台風18号、翌10月に発生しました台風第21号など、連続して襲来、2018年2月には、北陸地方の平野部を中心に日本海側で強い冬型の気圧配置による大雪、2018年7月の西日本豪雨、また記憶に新しい本年7月に九州地方で発生した記録的短時間大雨による熊本、鹿児島県の豪雨災害など、近年、局地的な大規模災害が増加する傾向にあり、また新たな問題として、2019年12月に中国・武漢で発生し、いまだ終息のめどが立たない新型コロナウイルスの感染症の猛威など、感染症対策が大きな課題となっている。災害による被

害を最小限に抑えるためには、行政、地域、市民が協力して、ハード整備のみならず、危険情報の収集、分析、伝達能力の向上をさせるなど、ソフト面の充実を図り、地域防災力を強化する必要がある。

今日の協議事項につきましては、2020年度市民総参加訓練実施状況について、2番目には円山水系河川整備事業の進捗状況について、3番目には新型コロナウイルス感染症に対応した災害対策について等を協議いたします。よろしく願いいたします。

それでは、3番の協議事項に入ります。

まず1つ目、2020年度市民総参加訓練実施状況についてを議題といたします。

それでは、政策調整部防災課、お願いいたします。

○防災課長(原田 泰三) おはようございます。

今、委員長からございました総参加訓練の実施状況ということで、右肩に200918ということで、特別委員会の資料としてお示しをさせていただきます資料に沿って、説明をさせていただきますと思います。

この訓練につきましては、毎年、地震、それから風水害ということで順繰りに実施してきておまして、この8月30日には風水害の市民総参加訓練ということで、実施を市民の方をお願いをしております。あらかじめお配りしております防災マップを確認をして、災害リスクを正しく認識した上で、効果的なといいましょうか、安全確保できる正しい避難方法の検証をいただくということで、おおむねの市の情報を、防災無線に沿って流される情報に基づいて、あらかじめ決めたタイミングで避難をいただいたというような流れになってございます。

一番最初の中ポツに参加状況ということで、359あります行政区で、単純に277区、3万1,000人を超える方に参加をいただいております。ちなみに1番目に町内会、区の参加状況ということで、表がつけてございます。やはりコロナの関係で、密集したりとかってというようなことが想定されたりとか、本来だったら隣保長さんとか、もっと多い数の方を集めて、いろんな検討をされようとなさって

いたんですけども、タイミング悪く、そういったことは難しいというような状況の中で、いろんな工夫をしてくださって、実施をされてるというような状況がかいま見えてきますが、残念ながら昨年より、やはり10.3ポイントほど減少しているということでございます。

特に、表を見てもらったら分かりますように、やはり一応ほかの日でもいいですよということ呼びかけはしておるんですけども、この日にやったということで単純に比較しますと、どうしても旅館とかを営業されていらっしゃる城崎のほうはずっと少ない状況に推移してると。ここには書いてないですけども、例えば昨年度であれば、城崎コミュニティで防災の取組をなさったりとかをして、いろんな工夫をされては実施をされてるんですけども、率的にはちょっと下がってるかなというようなことでございます。合計では、こういうような状況です。小・中学生の参加っていうことはあらかじめ意識をして、特に中学生の参加っていうものにつきましては、もう地域の支え手といいましょうか、担い手になれる人材ですので、そういったところには学校を通じてお願いをして、参加をいただいた結果がこちらに記載をしております。

2番目の市民の参加状況ということですが、これは単純に人数ですけども、報告では3万1,000人以上の方が何らかの形で避難行動を取ってくださった。単純に家の2階において大丈夫っていうのも避難行動の一つとして適切であれば、それは避難行動としておりますので、そういった方も当然含まれております。

3番目に、ちょっと具体的に各訓練の主な内容ということで触れさせていただいております。避難訓練の中では、やはり事前の防災マップを確認をして、自分たちの形で決めた避難経路に沿って避難をしたというようなことが下から2ポツ目でございます。一番下には、要援護者の方と支援者で相談した上で、避難訓練をしたというようなことございます。あと、大きいのが2ポツ目に書いてございます。近所に声をかけながら、避難をしたというようなこ

とで、これが本当に、やはり近くの顔見知りの方に声をかけられると、やっぱり避難をするという方っていうのは、全国的に見ても多い傾向にございますので、非常に効果的なやり方なのかなというふうに思ってます。

2番目に安否確認ということで、自宅にタオルを掲げる。自宅避難の完了者は1本タオル、他のところに移って自宅にはいないけど、安全確保できてるよっていう方は、例えばタオルを2本みたいな形のやり方でされてる、このサインの訓練というのも幾つかの区で実施をされておられます。

それから、3番目に避難誘導のところで重要なのが、車椅子とソフト担架の使用っていうようなことで、後からまた課題が出てくるんですけども、こういったことを実際に使って、訓練を実践されたら、いや、意外な落とし穴というか、見えなかった課題が見えてくるというようなことがございます。

4番目の消火訓練っていうのも、やはり自主防災組織が中心となってやってくださっているもので、やはり消火栓からの放水なんかも取り組まれています。風水害にとらわれずに、消火訓練なんかにたくさんさんの区で実施をいただいております。

それからあと、5番目の情報連絡、もう今どきLINEで、区民の皆さんまでは難しいかもしれせんけど、役員さん方なんかは招集だったりとか情報共有だったりとか、こういうグループでやっていらっしゃる所が多いということでございます。

あと7番目には、消防署のご協力によりますAEDなんかを日高の山宮のほうの区でもやっておられますし、そういった本当に風水害にとらわれずに、いろんな訓練を実施をしてくださっています。

8番目の図上訓練につきましても、市のほうで、今、進めておりますマイ避難カードなんかの作成の普及啓発に取り組んでくださってる区がございますし、マップを活用して要援護者の方の住居把握をしたんだっていうようなこと、あと土のうづくりなんかもやっておられます。

次のページですけども、ここにいろいろと書いてございますが、課題でございます。やはり一番大き

いたくさん出ているのが要支援者の支援というように、どうしても高齢者ばかりなると、逆に言ったら高齢者、真ん中のほうにございましたように、高齢者中心の訓練というのが必要じゃないかというような具体的なお意見を頂戴していたり、やっぱり芦田議員の質問とかでも出てましたけど、認知症の方とか、ちょっといわゆる避難誘導がなかなか難しいような方の対応が難しいなというようなこと。

それから、2番目の防災意識ですけども、全体的にやっぱり若年層とかアパート暮らしの方っていうのは、非常になかなか参画を得られにくくて、意識も啓発もしていかななくてはならないっていうようなご意見が出ておりました。

4番目の開催時期というのも、実は今までから言われてました。やっぱり暑い時期なので、もう少し考えてほしいっていうようなことがございますが、何せ市民総参加訓練っていうのは、日にちを決めて夏休み、子供が出られる最後の日に参加していただきやすいということで設定したという背景がございまして、なかなかこの時期を、じゃあ、別の日になってなると、また学校のほうの調整なども必要ですし、なるだけ暑さを避けて実施していただきたいというようなことがあるのかなというふうに思っています。

それから、あと5番目の一番下にも、やはり女性の力では消火するときに消火栓の開閉が困難だっというように、具体的にやっぱりさすがやっという区ならではの意見だなというようなことで、これはどう対応といたしましょうか、消火栓の栓を、じゃあ、緩めるのかという話にはなりませんので、この辺りはいろいろと女性に参画、実際の災害のときにやってくださりやすいような活動を、地域の実情に沿って検討いただかないといけないのかなというふうに思っています。

あと、次の裏面のページでございますが、ちょうど上の中ポツ3つ目でございます。電動車椅子で乗れないエレベーターがあった。手押しの車椅子が必要というようなことで、これは実際に電動車椅子、

非常に重うございますし、もしその電動車椅子が故障していたりすると非常に搬送も大変だというようなものですが、やはり実際に乗ってみたら、それが使えなかったというようなことが実際に分かったっていうようなことで、今後のまた課題にはなるのではないかとこのように思っています。

それから、5番目に福祉施設の主な取組として、実はファクス機能を使いまして、120を超える施設にショートステイとかデイサービスとか、そういったことを関係なく、こちらのほうから一方的に、こういう訓練をこの日にやっておりますので、ぜひ取り組んでくださいっていうことで、ファクスで呼びかけました。これで結果として、30日に実施したというような施設が12施設、272人が参加されたということがございます。ほかの日にも当然やっておられます。

2番目に訓練実施内容というようなことで、真ん中辺でございまして、実際に河川状況を伝達して利用者を2階に誘導したり、避難する場所に指導員の誘導の下に移動したり、実際に計画をしている避難どおりにできるかどうかのシミュレーションをしたり、山側から離れたデイルーム、いわゆる2階の山とは反対側の部屋の施設バージョンみたいな形でやっというところがございます。

課題といたしまして、やはりマンパワーがなかなか、いざ災害のときに使えるかどうかっていうのが難しいな。エレベーターがもし動かなかったら、2階に上げるのにも非常に時間がかかるっていうようなことで、非常にこういった件でも、何かしらこういった市側で避難の在り方について助言ができるようなことがあれば、これからもやっていきたいなというふうに思っています。

今日ご説明させていただいたのは、あくまでも訓練で各区長さんからいただいた質問であったり、課題であったりというようなものを項目ごとにまとめたものでございますので、今後、各区に対しまして、いただいたご意見を検討いたしまして、その地区の災害リスクや区の、例えば規模であったり、置かれた状況なんかを踏まえて、丁寧にアドバイスといい

でしょうか、一緒になって考えていきたいなというふうに考えております。

防災課からは以上でございます。

○委員長（上田 倫久） 説明終わりました。

質問等はございませんか。

○委員（井上 正治） いいですか。

○委員長（上田 倫久） 井上委員。

○委員（井上 正治） この総参加訓練がほぼ定着してきて、参加される方、参加されない方というのは、ほぼ出てきたんじゃないかという思いがします。今言われましたように、いい部分と課題とがありますわね。いいところは、やはりどういったらいいかいな、自主防災組織にいつも結果報告されてますわね。そのときでもよろしいんで、いい実例を挙げる挙げて、感想、評価ですね、この実施訓練、評価を書いて、新しく見えたところ、課題としてはこうですよとか、それで新しいこういったタオルは出したりとか、いいやなところをやっぱり抽出して、きっちりと、やっぱり自主防災組織のほうにお知らせするというのも、私はいい刺激になるのではないかなと思いますし、そういうものをやはり何回か、何回もってというのは非常に難しいか分かりませんが、あまり回数が増えない、同じものを配るのであれば、それを少しつけて、見ていただいて参考にさせていただくような取組がいいかなとは思いますが、その辺はいかがですか。

○委員長（上田 倫久） 防災課長、どうぞ。

○防災課長（原田 泰三） 今、議員おっしゃられましたせっかくいただきましたいいこと、悪いことのご意見ですので、それぞれ市の考え方ですとか、ほかの区ではこんなような事例で取り組まれていますよというようなことのヒントになりますので、今後、各区にこのご質問等に対してあんまり遅くなってしまうと、時期を失ってしまいますので、なるだけ早くお返しをさせていただきたいということがありますのと、あと議員、今言われました自主防災組織の実態調査、毎年度3月にご報告をしているんですけども、その中にも一応末尾のほうに取組の好事例だったりとか、失敗事例はなかなかないかもしれ

ません、けど、好事例なんかを記載をさせていただいて、ヒントになるようなことでつながるようにしていきたいなというふうに考えております。以上です。

○委員（井上 正治） 上田さん、はい、よろしく。

○委員長（上田 倫久） ほかにありませんか。

奥村委員。

○委員（奥村 忠俊） 今も頂いた資料の4ページが一番最後のところですけども、電動車椅子で乗れないエレベーターがあったってということが書いてありますけども、これは電動車椅子の大きさがなかなか分かりにくいもんですから、聞いてみるんですけど、そういう、やっぱり小さいエレベーターしかないというようなことなのか。

それから、その下にあります福祉施設の主な取組というのがありまして、これ全体から見ますと、この124施設にしたら20施設だけが参加したということになるんでね。これは、やっぱり調整が十分にできなかったということなのか、何かこれだけ見ると参加が少ないように思えたんで、事情を聴かせていただけたらと思います。

○委員長（上田 倫久） 原田課長。

○防災課長（原田 泰三） ただいまの1つ目の電動車椅子の件なんですけど、ちょっと区がどこだっているのが今すぐには分からないんですけども、地区の中で実際にそういったものをふだん使っている方が、恐らく上層階にお住まいになっていて、そのものでは入らずに、手動の手押し普通の車椅子に変えて乗せられたら、降りれたということなので、ふだん、ちょっと詳しい話が今、分かりませんので、一度ひもといってみまして、どういう状況だったのかっていうのは、具体的に尋ねてはみたいと思っております。すみません、ちょっと答えにはなっていないかもしれません。

それから、あと、この福祉施設の参加状況なんですけども、実は市民総参加訓練を実施をし始めて、二、三年たってから、せっかくBizFAXというファクス機能がありますので、福祉施設なんかには、災害のときの避難情報なんかこのファクスで一

方的に、要らないと言われても、一方的に送らせて
いただいとるような機能がございしますので、それを
活用して、一昨年ですかね、うちではこういうよう
な取組をしておりますので、ぜひ施設の中でも参加、
取り組んでいただけたらというようなことで、呼び
かけてるといようなスタンスでやっております
ので、議員、今言われたように、まだまだ参加は少
ないですし、そもそも回答するつもりもないとい
うような施設ももしかしたらあるのかもしれませんが
でも、ちょっとそこまで、こちらの訓練につきま
しては、関与していないといようなところが、実
際のところがございしますので、これからも続けてこ
ういった取組というのは継続したいと思ってお
りますので、当然ながら福祉施設のほうにも、よりこ
ういった訓練っていうのは、もう今は必須になっ
ておりますので、風水害なんかの避難っていうのは、
法律で定められた、取り組まなくてはならないこと
になっておりますので、もっと強く強く訴えていく
ようなことも検討したいなといふふうに思ってお
ります。以上です。

○委員長（上田 倫久） 奥村委員。

○委員（奥村 忠俊） 初めの電動椅子のことなんで
すけども、施設が高層というのよりも、むしろ2階、
3階ぐらいのものがありますし、足が不自由だっ
ていう人はたくさんあると思うんでね、電動椅子が使
われてるところもようけあると思うんですけども、
それがやっぱり乗れないというのでは、ちょっとい
ざというときに何かつまずくといつか、そんな感じ
がするんです。普通そういう設備をされるときには、
電動車椅子がやっぱり乗れるような機能のとい
いますか、広さというものが何か義務づけられとるか
どうか分らんけれども、つきもののように思う
んですけどね、それがどうなんでしょう。

○委員長（上田 倫久） 原田課長。

○防災課長（原田 泰三） 恐らく市民総参加訓練の
ほうのアンケートでの回答ですので、何かちょっと
例えばどこかのアパートにお暮らしの方で、電動車
椅子を便利だ、便利といつか、生活面で部屋で使っ
ていらっしゃる、それを使って実際に訓練をしてみ

たら、屋外のエレベーターが使えなかったというよ
うなこともちょっと今、想定されます。ですので、
ちょっと今の法制度上、あれ、エレベーターの関係
と購入された電動車椅子の関係っていうのは、ちょ
っと分からないところもあるので、一度どういう状
況だったかっていうのは、このアンケートをいただ
いておりますので、その区に……（発言する者あり）
はい、聞いて、またお示しをしたいと思います。

○委員（奥村 忠俊） よろしいです。

○委員長（上田 倫久） ほかにありましたら、お願
いします。よろしいか、ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上田 倫久） それでは、ないようですの
で、2020年度市民総参加訓練実施状況について
は、この程度でとどめておきたいと思います。

2番目、次に、円山川水系河川整備事業の進捗状
況についてを議題といたします。

それでは、都市整備部建設課、お願いいたします。
どうぞ。

○建設課長（富森 靖彦） 建設課からは、円山川水
系の河川整備計画の進捗状況についてご報告させ
ていただきます。

資料につきましては、お手元のほうに図面も含め
まして、3枚物の資料をお渡ししてるかと思いま
すので、そちらをご参照ください。

円山川水系河川整備事業ですが、4月の事務概要
でもご説明させていただきましたとおり、現在の河
川整備事業につきましては、平成25年に策定され
ております円山川水系河川整備計画に基づき、実施
されております。

現在の進捗状況です。2枚目の資料ということで、
2020年度円山川水系河川整備事業実施位置図
というものをつけさせていただいております。これ
は今年度、国土交通省のほうで予定されております
工事箇所を図面に落としたものです。

なお、既に発注されてます工事、それから契約に
至ってない工事がありますので、予定としておりま
すものは、まだ契約に至っていない工事というこ
とでご認識をいただきたいと思えます。

まず、順番に行かせていただきますが、無堤防地区の解消ということで、瀬戸、津居山地区ですが、これはちょっと図面には落としておりませんが、これにつきましては、引き続き整備案につきまして国土交通省のほうで検討されております。先日も、関係区のほうに国土交通省のほうと建設課のほうが参りまして、協議をしております。

続きまして、ひのその他地区になります。これは図面でいいますと、ちょうど左側の来日橋に関連する工事の部分です。既にひのその他地区につきましては、奈佐小橋から結和橋の上流までの区間につきましては、平成16年、台風23号水位の高さまでパラペットが完成しております。現在は、県道の来日橋の架け替え工事が進められておりまして、左右両岸の橋台が施工されております。なお、左岸側の橋台につきましては、既にくい打ちが完了しておりまして、今後、橋台の立ち上がりというような工事になるというふうにご認識をしております。今後は予定と書いておりますが、来日橋の上部工の工事、それから隣接します宮代川樋門の上屋工事が発注を予定されているところです。

続きまして、鶴岡、日置地区になります。これにつきましては、図面でいいますと、右側のほうの下から2つ目の向日置橋整備工事というものがありますが、これに関連いたします。日置地区につきましては、堤防工事と併せまして、市道の向日置橋、これの架け替え工事が予定をされております。予定としておりますので、まだ契約には至っていないというふうにご聞きしております。それから、鶴岡地区につきましては、図面には落としておりませんが、こちらにつきましては、引き続き用地買収交渉が進められているというふうにご聞きしております。

続きまして、日高地区ですが、これも図面でいいますと、先ほどの向日置橋整備工事の下にあります日高地区堤防整備工事ということで、こちらにつきましては、神社等の移転も済みまして、順調に築堤工事が進められているというふうにご聞きしております。

続きまして、中郷遊水地の整備です。これは、ち

ょうど真ん中辺りにあります中郷遊水地整備工事、これに関連する部分ですが、下池、上池、2つ池がありますが、下池、下流側の池につきましては、既に用地買収も完了しております。掘削、それから一部では、築堤工事も現在進められております。上池につきましては用地買収、4月の時点でほぼ96%用地買収できましたということで、報告させていただきましたが、引き続き継続的に進められてまして、今年度中には買収完了を目指しているというふうにご聞きをしております。

続きまして、防災・減災、国土強靱化3か年緊急対策としても実施されています堤防強化事業です。ちょうど図面の真ん中辺りの円山川堤防強化工事であったり、その右側の出石川の堤防強化工事、これに当たりますが、現在、出石川を中心に工事が進められております。昨日もちょっと現場を確認してきましたら、ちょうど出石川の左岸側、片間から伊豆辺りですが、そちらのほうは既に仮設道路が設置されてまして、のり尻補強のブロック材料が置いてあるというような格好で、順調に工事が進められております。今後は予定というふうにご聞きしております。出石川の堤防強化工事の残りの部分、それから円山川の右岸側の堤防強化工事が発注されるというふうにご聞きしております。

なお、この堤防強化事業につきましては、今年度が最終年度となり、予定箇所全てが完成するというふうにご聞きをしております。

次に、要望活動ですが、毎年、近畿直轄河川治水期成同盟会連合会ということで、豊岡市もその連合会の一員として、国交省、財務省に要望活動しておりますが、今年度につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響もありまして、国交省、財務省への直接要望というのはされませんで、7月7日に要望書の送付ということで要望に代えさせていただきます。

続きまして、その他ということでご報告させていただきます。議会の本会議で芦田議員からもご質問いただきまして、都市整備部参事が答弁いたしました円山川流域治水協議会についてです。

国土交通省は、近年、毎年のように全国各地で頻発します自然災害に対応するために、全国の一級河川におきまして、河川管理者だけでなく、あらゆる関係者による流域治水へと転換していく方針を示されておりまして、これを受けまして、円山川水系におきまして、円山川流域治水協議会を立ち上げまして、流域全体でおおむね5年から10年の間に緊急的に実施いたします事業、具体的に言いますと、河川対策の事業、それから流域対策の事業、それからソフト対策の事業、これらを取りまとめた流域治水プロジェクトというものを策定、公表いたしまして、計画的に推進することとなっております。協議会の構成メンバーにつきましては、豊岡市長、それから養父市長、朝来市長、兵庫県の県土整備部の総合治水課長、それから国土交通省豊岡河川国道事務所長ということで構成されておりまして、資料の3枚目ということで、第1回協議会の結果ということで、先日8月26日にウェブ会議で行われました協議結果をつけさせていただいております。

第1回協議会では、本協議会設立の趣意書、それから規約の確認、それから流域治水プロジェクトについての説明などがありまして、会議の最後にありました意見交換では、中貝市長からも、台風23号災害以降の国で実施されました河川整備の効果などの事例も紹介する中で、今回の流域治水プロジェクトの策定におきましては、堤防整備などに加えまして、早期に治水上の効果が発揮できます河道掘削、これについても、ぜひ追加で入れていただくようにということの意見も申し上げたところです。

今後の動きですが、実は、昨日9月17日に第2回の協議会が書面にて開催されております。そこでも改めまして河道掘削を、この流域治水プロジェクトの対策の一つとして入れていただきたいという意見も申し上げております。

今月末に、河川対策を中心に取りまとめた円山川流域治水プロジェクトの中間取りまとめというものが公表されることになっておりまして、その後、来年3月をめどに河川対策に加えまして、流域対策、それからソフト対策、これらを追加して取り

まとめまして、最終的な円山川流域治水プロジェクトということで、公表されるということになっております。

豊岡市といたしましても、今回の治水協議会の取組につきましては、しっかり国や他市町とも連携を取りながら、よい計画となるように取組を進めていきたいというふうに考えております。

以上で建設課のほうからの説明を終わります。

○委員長（上田 倫久） ありがとうございます。

説明終わりました。

質問等はございませんか。芦田委員。

○委員（芦田 竹彦） 計画、聞かせてもらいました。

ありがとうございます。2点、ちょっとお尋ねをしたいと思います。

2枚目の図面の資料で、2020年度の円山川の水系の河川整備事業実施位置図であるんですけども、堤防とか、そんな円山川の堤防にしたって、出石の堤防にしたって、これ予定とありますけども、今年度の完成ということで、計画されてるということで認識したらええんですかな、それが1つと。

それから2点目には、私も一般質問で、流域治水のことでちょっと質問したんですけども、ウェブ会議でこれ開催されてますよね。各地域の防災力を高める上でも、各行政の長が地域の中で、本川だけではなくて支川のところの問題点もしっかり継続して、今後、会議を予定されるということなんですけども、その情報もやっぱりお互いに共有しながら、まとめるのは国土交通省かも分かりませんが、そういったことも僕は大きな大事なことだなと思いますので、ぜひ流域対策のソフトも含めて取りまとめを、追加を要するとありますけども、本当に豊岡では豊岡の問題、課題なんかをどんどん吸い上げていただいて、流域全体をというのが、これは本当にいい取組だなと思ってますので、継続して、よろしくお願いをしたいということでございます。これは要望かも分かりません。

○委員長（上田 倫久） 富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） 先ほどの質問、まず1点目ですが、堤防強化につきましては、国のほうから

は、一応、今年度が最終年度、先ほど言いました国土強靱化緊急3か年事業につきましても今年度が最終ということですので、今年度が最終ということで、今年度完了という予定で工事を発注をいたしませんというふうに聞いております。

それから、流域治水協議会の件ですが、先ほども言いましたように、市としましてもせっかくこのようないい取組ですので、当然、豊岡市の下流域としての立場での意見、下流域としてどうするのが一番よいのかという意見、流域対策、ソフト対策も含めても当然考えていかないといけないと思いますし、また下流域ということで、上流側の取組についても基本的にはどのような取組をされるか、当然、下流域にも影響がありますので、その辺りも全体も含めて考えるということで、協議会に参加させていただきたいというふうに考えております。以上です。

○委員長（上田 倫久） 芦田委員。

○委員（芦田 竹彦） 承知しました。

国土強靱化の最終年度ということなんでですけども、安倍政権もちょっと替わっちゃいましたけども、3年間、集中的にして強靱化のために、工事の一部の一環だということなんでですけども、さらに、これはもう今後も引き続き流域のこの問題点については、国云々ではなくて、住民の方が生活されている市が一番よく分かっているわけですから、いろんな点検とかでもされてましようけども、豊岡市でこの円山川の流域のことについては、強靱化で20年度は終わるけども、継続をして問題点の課題なんかを進めていただきたいということ、予算づけもそうなんですけども、そういったことをお願いをしておきたいなというふうに思います。以上です。

○委員長（上田 倫久） ほかにはありませんか。

奥村委員。

○委員（奥村 忠俊） 5ページ見させていただいてまして、今年、全国の災害っていうのは大雨が降ったりして、大変大きな被害がいっぱいあったんですけど、23号で経験したようなものでは、やっぱり大分大きさは違ってきているように思うんですよ。それで、国交省のほうも一生懸命それぞれでやってい

ただいておるんですけども、予定というふうには書かれているところは結構多いんですけども、これはやっぱり目標値というのは、例えば何年ぐらいには着工して、そして大体これぐらいには完成するということが決められているのかいないのか。要するにこれぐらいかかったら後、この年数はいろんなもの関係してきますので、1年でできたり、2年でできたりするものもあれば、それなりにかかるということもあると思うんですけどね。こういう今の世界中の気候が変わってきているということがあって、しかもそれは災害を伴っておるものですから、これまで以上に危機感を持つ市民が多いと思うんですよ。ですから、一日も早く、そう簡単にできませんけども、そういった点では非常にこの取組というのは急がれるし、大事なことだなというふうに思うんです。担当の職員の方々も大変ですけども、これはやっぱり予定が実施になってるというような形に早く変わるようにすな、ぜひ頑張ってもらいたいと思うんですよ。今言いましたように、地球の環境が変わっているという点から、本当その辺、力をしっかり入れてすなというような覚悟をひとつ述べていただければありがたいんですけども。

○委員長（上田 倫久） ご意見ですか、ご意見で。

○副委員長（木谷 敏勝） いやいや、決意を聞きたい。

○建設課長（富森 靖彦） なかなか国のほうのいついつ完成しますっていうのは言われないんですけど、やはり先ほど来から出てます国土強靱化3か年事業というのは今年度で終わります。そういう意味でも、先ほどの流域治水協議会の中で、そのプロジェクトの中にこういう河川整備計画に基づいたものっていうものを国のほうでも取り入れて、その事業をそういう意味では加速させるという部分もあるというふうにも聞いておりますので、我々も国土強靱化が終わったからもうそれでおしまいということじゃなくて、それに代わる事業であったり、今の河川整備事業をもっともっと加速していただくというようなことも含めて、どんどん実情を訴えていきたいというふうには考えております。以上です。

○委員長（上田 倫久） ほかにありませんか。

青山委員。

○委員（青山 憲司） すみません。今の円山川水系の整備事業についてお話を伺いました。平成16年の台風23号の後に、堤防強化をしていただいたり、河川掘削事業をしていただいて、大分、どういふんですか、円山川の河川の流量が急激に上がらないよふにということ、その効果も拝見はしておるわけですけども、最終的に堤防を整備ができた段階で、氾濫警戒水位のプラス0.5が暫定堤防とされているというふに理解してはるんですけども、完成堤防としては1メートルというふに理解はしてはるんですけども、この堤防の整備ができた段階で、大体その暫定堤防が完成するのかどうか、その辺りもちょっとお聞きしたいんですけども。洪水水位っていうのか、流量ですね、以前、台風23号来るまでは、立野の地点で5,400立米の洪水に耐え得る堤防整備ということで理解しとったんですけども、その辺りは現状どういふ計画になつてはるのかをちょっとお聞かせいただきたいなというふに思ふんです。というのは、台風23号のときの雨量が287ミリで、ああいった被害を受けてきたわけですけども、現状、堤防が完成堤防になつたときに、トータル雨量が、累積雨量が何ミリまででその堤防が超えるのか、その辺りのことが現状ちょっと分かれば、数値的なものを含めてお知らせをいただきたいなというふに思ふんですけども。

○委員長（上田 倫久） 富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） 現在の円山川水系の河川整備計画で計画されてます計画高水流量っていうのは、台風23号での雨量に基づきます水位ということで計画をされております。当然、今は計画高水位プラス余裕高50センチということで、暫定ということで整備されておりますが、現在まだまだ無堤防地区っていうのも下流域でもありますし、上流の日高の部分でもありますので、将来的に計画高水位プラス余裕高、それ以上の整備がいつ頃になるかというのはちょっと現段階では示されていないというのが現状ですし、あと、先ほども言われまし

た雨量が何ぼでっていうようなことっていうのは、ちょっと今の段階では把握できていません。あくまでも計画高水位っていうのは、平成16年の台風23号水位でということ、計画されているというふに、認識はさせていただいてるところです。以上です。

○委員長（上田 倫久） 青山委員。

○委員（青山 憲司） 分かりました。

今の円山川の堤防の整備については、出石川あるいは円山川本流も含めてその流量計算をされて、計画高水位に達する今の円山川本流の流量が何立米、何トンになつたときに、どれぐらいの水位になるということ、多分、計画をされてきてると思うんで、その辺りのことがちょっと分かればお知らせいただきたいと思ふます。

○委員長（上田 倫久） お願いします。

○都市整備部参事（河本 行正） 今、青山委員さんがおっしゃいましたことにつきましては、円山川水系の河川整備基本方針ということで、2008年の1月に改定されて、今それが現行です。それはもう基本中の基本で、そこの方針がありまして、今現在、整備は円山川水系の河川整備計画ということで、平成25年からおおむね20年か25年ぐらいのスパんで、台風23号災ですね、平成16年の、その降雨相当を今の円山川の河川のハイウォーターレベル、基準となる最高の水位想定しとるんですわ。

そこに、以内で流すというのが河川整備計画で今やってますんで、根本的に円山川、目標としてますのは、従来から言われております100年確率程度ということで、基本高水としましては昭和34年9月洪水、昭和51年9月洪水、昭和54年10月洪水、それから平成2年9月洪水、平成16年、先ほどの23号、その辺を兼ね合わせまして、考慮しまして、今の計画では立野地点で6,400で、そのうち800立米につきましては洪水調節施設で調節して、実際の立野の配分といたしまして、今5,600立米毎秒ということの計画にはなつております。

○委員（青山 憲司） 分かりました。ありがとうございます。

ざいます。

中郷の今の遊水地でかなり流量調整はできるというふうに期待をしているんですけども、そういう数値もかなり台風23号以前の流量で私ちょっと確認してますので、できればその辺り中郷の堤防、遊水地が整備できた後、あるいはその堤防が最終的にどの堤防の高さまで整備できたってということも含めて、その今の流量がどれぐらいそれによって変化してきたのかということも併せて、ちょっと分かればなというふうに質問させていただきました。堤防整備については、引き続きまたよろしくお願ひしたいと思います。ありがとうございました。

○委員長（上田 倫久） ほかにはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上田 倫久） それでは、ないようですので、円山川水系河川整備事業の進捗状況については、その程度でとどめておきたいと思います。

3番、新型コロナウイルス感染症に対応した災害対策について。

次に、（3）新型コロナウイルス感染症に対応した災害対策についてを議題といたします。

それでは、消防本部、お願いします。

○消防本部参事（井崎 博之） ここに上げております新型コロナウイルス感染症に対応した災害対策につきましては、前回、6月の本委員会で救急事案の対策としまして、発熱や呼吸器症状のある傷病者に対しては、感染防止やN95マスクなどの装着によって、完全防護の服装で対応することをご説明をさせていただきました。現状におきましても、感染症の疑いが少しでもあると判断した場合は、完全防護の服装で対応しており、現在のところ、救急隊員が検査を受けるような事案も発生していないことをご報告させていただきます。

なお、救急搬送しました傷病者のうち、今までに6名の方がPCR検査を受けましたが、全ての方が陰性であったと報告を受けております。

私からは以上です。

○委員長（上田 倫久） ありがとうございました。

説明は終わりました。

質問等はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上田 倫久） それでは、ないようですので、新型コロナウイルス感染症に対応した災害対策については、この程度でとどめておきたいと思います。

以上で当局側に説明願う協議、報告事項は終了いたします。

今日、今期このメンバーでの委員会は最後になるかと思いますが、1年間の総括として意見交換をしたいと思います。

委員の皆さん、当局の皆さん、どちらからでも構いませんので、何かございましたら、ご発言をお願いいたします。

○委員（青山 憲司） すいません。よろしいですか。

○委員長（上田 倫久） 青山委員。

○委員（青山 憲司） 何もなかったらですので、ちょっとコロナの関係で1点、できればということなんですけども、これからまた台風時期が来まして、どういうんですかね、避難所のコロナ対策っていうのは、3階にも段ボールで囲われてこういうことになりますみたいなことであるんですけども、避難所の運営が大変になってくるんじゃないかなというふうなことも思ったりしまして、そういう意味で、今回の8月に実施された避難の総合訓練なんかも踏まえて、やっぱり避難所の運営っていうのは、市の職員さんだけではなかなか対応が難しいのかなっていうふうに思ったりしてます。各地域で、コミュニティな活動も含めて、今、防災部会っていうんですかね、そういうのがあったりして、できれば各地域に赴いて、そういう避難所の運営の指導なんかを、できれば出前講座として受けられるっていうのはよく分かるんですけども、できれば土曜日だったり、日曜日だったりっていうことで市の職員さんも大変なんですけど、避難所のコロナ対策に伴う運営について、できれば指導していただくようなことをぜひ考えていただきたいなというふうに思います。

なかなか実感として避難所で避難を、今までからもそうなんですけども、避難所の運営っていうのは、

訓練としてやられてる地区がどれだけあるのか、ちょっと分からないんですけれども、もう少しそういうことで、これからコロナもそうですし、インフルエンザも、どういうんですかね、発生が懸念される時期に入ってもきますので、その辺、ちょっと各コミュニティセンターと調整をしながら、そういった訓練もしていただくようなことを考えていただいたらどうかなというふうに思いますので、それは個人的な思いとしてお願いできたらなというふうに思います。

○委員長（上田 倫久） 防災課、原田課長。

○防災課長（原田 泰三） 今の避難所運営の関係なんですけど、委員もよくご存じだと思いますが、下陰なんかも、特に北中のほうの体育館で実際に受付をしたりだとかいう訓練も、一昨年ですかね、なさってたりとかもして、毎年、区の中でそういった取組の研修をされたりとかしてます。去年は、地震のときの市民総参加の訓練では、中筋コミュニティが実際に避難所の運営訓練をなさいました。ただ、その当時っていうのはコロナ禍ではなかったですので、だっと殺到する方々をばっとさばくみたいな感じの訓練だったんですけども、今おっしゃっていただきましたように、私どものほうもコミュニティが発足してからまだ数年というような状況の中でなかなか、実は心の中では、ぜひともコミュニティのほうにそういった避難所運営、地域の例えば防災士さんだったりとか、自主防のリーダーの方だったりとか、いわゆるコーディネートをしていただくような立場で関与していただきたいというのが非常に気持ちとしてはございます。ようやく発足して二、三年ほどたちまして、各地域のコミュニティにもそういったことをお願いをさせていただくような、今、タイミングになってきているような実感がございます。

実際、コミュニティに出向いて、実は今日は国府地区コミュニティの出前講座があるんですけども、その中でも段ボールベッドの設置の取組だったりとかも、コミュニティのほうでしたいというようなことで言ってくさってます。それは、恐らくはそ

ういった避難所運営のサポートができたらっていうようなことも、お気持ちの中であるのではないかなというように思っております。ですので、委員おっしゃいましたように、今後はさらにコミュニティ単位でのそういった避難所運営に関する実際の現場での対応なんかにつきましても、そういった機会をできるだけ設けて、まずはご説明から入って、そういったニーズがあれば、そういった対応も当然させていただくようなつもりではおります。以上でございます。

○委員長（上田 倫久） 青山委員。

○委員（青山 憲司） お願いしたいと思います。

コロナの関係で避難所運営にも体制が、今までよりも多くの体制も必要になってきますし、今の避難の受付から避難していただく場所の設置だとか、あるいは、どういうんですか、いろいろな備品等についても準備等、それから避難してきていただいた方に対する対応も全部、別々にしていかなんというふうなこともあつたりしますので、この上田委員長は、五荘地区の防災部の部長でしたっけ、よく防災士も取っていただいて、あれされてますので、そういう地域のコミュニティにもうできるだけどんどん入って、コロナの対応はこうですよっていうことを、できれば指導していただくようなことをぜひお願いしておきたいというふうに思います。

○委員長（上田 倫久） ほかにありませんか。

芦田委員。

○委員（芦田 竹彦） すみません、青山さんも言われたんですが、私も一言だけちょっと。避難所運営のことで今ちょっと話があつたんですけど、どうしても要支援者の方であるとか、それから妊婦さんであるとか小さいお子さんだとかいう形の方がやっぱり避難されるというケースもありますので、僕は避難所運営の方、さっき防災課も言われましたけども、ぜひとも女性が活躍するような避難所運営を構築していきたいというのが、そういう思いがありますので、その視点でもって、今後そういった点でも女性が活躍できるような形の避難所運営も考慮

いただきたいということをひとつお願いしておきます。

○委員長（上田 倫久） よろしいか。

ほかに当局のほうからありませんか。

大変充実した委員会だったと思います。

○委員（芦田 竹彦） まとめて、委員長。

○委員長（上田 倫久） いや、何かないですか。

ほかになければ、この件はこの程度にとどめたいと思います。

以上で当局職員の方は退席いただいて結構です。お疲れさまでした。

暫時休憩いたします。5分間、次は10時半から。

午前10時24分休憩

午前10時35分再開

○委員長（上田 倫久） おそろいですので、再開いたします。

（4）番、委員会調査中間報告書についてを議題といたします。

市議会会議規則第45条第2項の規定により、9月定例会の閉会日に当委員会の調査中間報告を行いたいと思います。ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上田 倫久） ご異議がありませんので、調査中間報告を行うことに決定しました。

それでは、委員の皆さんには委員会調査中の中間報告書（案）を事前に配付していただきましたので、お目通しいただいているものと思います。改めて配付しておりますが、委員会調査中間報告書（案）をご覧願います。

それでは、事務局から説明願います。

○事務局主査（伊藤八千代） 失礼します。2020年9月4日付で既に素案のほうをお配りをしておりまして、修正、加筆等でご意見をとっております。2020年9月29日付委員長発、議長宛の委員会調査中間報告書、5ページ物の報告書のご清覧をお願いします。

まず、1の付議事件及び3の経過で記載をしていますように、本委員会は2019年11月12日の

臨時会で設置をされ、災害対策全般に関し、総合的かつ計画的な防災・減災対策に関する調査研究活動を行ってきました。

本委員会では、2019年11月19日の委員会で、重点調査事項9項目を決定し、調査研究を行ってきました。

次に、3の委員会調査経過の項目では、今期の委員会の開催経過を掲載しております。

3ページをご覧ください。3ページには、重点調査事項としまして、本庁・振興局の防災体制並び庁内事業継続計画（BCP）、河川・土砂災害対策、雪害対策、自主防災組織、そして、4ページにつきましては、その他の2項目について記載しております。

5ページには、本報告書のくくりとしまして、市当局に向け、国や県の見直しを待つことなく、すぐに対処できる事項については早急な見直しを行い、財政上の理由のみをもって事業化の可否を判断することなく、市民の安全を守る立場として先進事例の調査を行い、具体的な事業の実施に向け、前向きな検討に努められたい旨を付し、中間報告としております。

本報告書について最終確認を本日いただきまして、今期最終日29日の定例会で議場配付をする予定としております。

以上、よろしく願いいたします。

○委員長（上田 倫久） 説明は終わりました。

それでは、委員会調査中間報告書（案）の案文についてご意見等がありましたら、ご発言願います。

なお、先ほどの事務局の説明にありましたように、本報告書は、今期定例会閉会日（29日）に議場配付します。

ご意見はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上田 倫久） 特に訂正、追加等がなければ、委員会調査中間報告書については、了承いただいたものとして議場に配付します。

その他ですが、委員の皆さん、事務局、最後に何かありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（上田 倫久） なければ、この件はこの程度にとどめます。

閉会。

以上で本日の議題は全て終了いたしました。お疲れさまでした。

午前10時40分閉会
